



第24回九州ミッドシニア選手権競技 第39回九州グランドシニア選手権競技

競技報告 (2017/ 10/ 4 - 5)

写真と記事 : M. Kikutake

Gシニアは通算7オーバーの151

中島好巳(チェリーG鹿児島シーサイド)が プレーオフを制して初優勝

Mシニアは通算6オーバーの150

比嘉賀信(美らオーチャード)が初優勝



ミッドシニア(M)、グランドシニア(G)の両九州選手権は10月4、5日の2日間、福岡県北九州市の九州ゴルフ倶楽部八幡コース(ミッド6475ヤ、グランド6120ヤ、パー72)で行われ、Mシニアは通算6オ

ーバー、150で回った65歳の比嘉賀信(美らオーチャード)が後続に1打差をつけて初優勝した。同選手権の沖縄勢の優勝は初。

Gシニアは71歳の中島好巳(チェリーG鹿児島シーサイド)が通算7オーバーの151で並んだ70歳の小川敏(ザ・クラシック)を下し、初優勝した。中島は2011年のMシニアを制しており、シニア2冠を達成した。

(写真は中島好巳⑥と比嘉賀信⑤の両選手)



Gシニアの中島はMシニアと合わせ2冠達成

選手権は最終日、やや風が出たものの、2日間を通じて好コンディションに恵まれた。

70歳以上が出場資格のGシニア選手権は各県地区予選を通過した選手ら78人(欠場4人)が出場。初日、首位に立ったのはともに3バーディー、2ボギーの1アンダー、71をマークした小川敏(ザ・クラシック)と中島の2人。これを1打差のイーブンパー、72で堀昭男(美々津、75歳)、さらに2打差の74で金井敏男(福岡、73歳)と河村二郎(同、70歳)の2人がつける展開となった。この日で予選カットが行われ、14オーバーの86、61位タイまでの69人が最終日に進出した。

その決勝ラウンドは最終組の争いになったが、強まった風の影響がスコアを崩す選手が続出。そんな中で6ボギー、1ダブルボギーの80とした中島と、8ボギーの80の小川敏が首位に並び、2人によるプレーオフへともつれ込んだが、1ホール目に8本のバーディーパットをねじ込んだ中島が栄冠を勝ち取った。

1打差の3位は堀で、さらに1打差の4位タイにこの日のベストスコア、75で上がった高谷敏征(喜々津、74歳)と小川雅彦(大分竹中、70歳)の2人だった。

Mシニアは風を制した？比嘉が逆転で沖縄勢初の優勝

65歳以上のMシニアには75人(欠場5人)が出場。初日、4バーディー、4ボギーのイーブンパー、72で単独首位に立ったのが69歳の池田康夫(ローレル日田)。これを2打差で元田修(司ロイヤル、69歳)と江崎洋一(同、67歳)の2人。さらに1打差、4位タイに実力者の青木英樹(佐賀ロイヤル、66歳)とMシニアルーキーの梅野肇(西日本)の2人がつけた。

通算12オーバーの84、51位タイまでの59人が進出した最終日は、首位に4打差、6位タイでスタートした比嘉が、上位陣のスコアが伸びない中で1バーディー、3ボギーの74とベストスコアタイをマークして通算6オーバーとし逆転、初優勝した。1打差の2位タイには、同じく74で初日の10位タイから浮上した佐々木徹(くまもと中央、70歳)と江崎、池田の3人。さらに4打差の11オーバー、5位タイには田中清文(祁答院、67歳)と武田幸一(麻生飯塚、65歳)だった。

Mシニア 22人、Gシニア 11人が日本選手権出場資格を獲得

この試合の結果、第24回日本ミッドシニア選手権(11月1~2日・千葉県、平川CC)には15オーバーの16位タイまでの20人と、16オーバー21位タイの3人中、最終日スコアの上位2人の計22人(シード選手を含む)が、第24回日本グランドシニア選手権(同9~10日・千葉県、鷹之台CC)へは13オーバーの7位までと、8位タイの5人の中から最終日スコア上位、マッチングスコアカードで4人を選び、計11人(シード選手2人を含む)が出場権を獲得した。



中島好巳と比嘉賀信 「優勝はキャディーさんの力」

期せずして口にした「キャディーさんに助けられた」



(C)GUK

ミッドシニアの比嘉は最終日、インスタートの前半は1バーディーの3ボギーで38でターン。やや風が強まった後半は、スコアカード通りで上がり、結果はこの日のベストスコアタイの74。逆転で勝利を手にした。

風に強い沖縄勢？ そう水を向けると、「いや、沖縄の風とは違った。ホールごと、ショットごとに風の向きが異なり、まったく読めなかった」という比嘉だった。それでいて、スコアを乱す選手続出の中で、後半はパープレー。この日2オーバーは見事だ。

「パーオンできなくてもアプローチ、グリーンでカバーできた。何といてもキャディーさんの指示が的確で、寄せワンができたし、我慢のゴルフが実を結んだ」。比嘉は「キャディーさんが良かった」と何度も口にした。

沖縄市で看護師を務め、ゴルフは33歳からのキャリア。それ以前は、最初は釣りが趣味で船を買って沖に出るほどだった。しかし、家族から「危ないから」と猛反対され、陸に上がり、ゴルフクラブを握った。以来、30年以上になり、地元では国体メンバーにもなっているし、シニアでは「3回ほどジャパンにも出ている」と言う。今大会は、「決勝には残りたいとおもっていたが、それがかなうと、次はジャパンに出たいと欲が出た」。それが、初めての九州タイトルを手にしてのジャパンになり、相好を崩していた。

一方のグランドシニアを制した中島。前半は5ボギーとボギーの山を築き、結果的に「記憶にない」と言うバーディーなしのラウンドになってしまった。しかも最終18番(パー4)ではアプローチ、パットともミスしてダブルボギーとし、プレーオフにもつれ込んだ。

そのプレーオフは1ホール目、8^筋に乗せたパットをねじ込んでの勝利。「あれはキャディーさんの力だった」という中島だ。ラインを読んだ中島はカップから20^{ヤード}外して打とうと思った。すると、キャディーさんが「15^{ヤード}でいい」と読み直してくれた。その5センチの差が見事に決まったのだ。「正規のラウンド中も的確なアドバイスで、僕が言う通



(C)GUK

りに打てないのでキャディーさんの方がもどかしかったのではないか」と言うほど。

2011年、65歳で初出場の九州ミッドシニアを制した。それから6年。今度は昨年が続く2度目のグランドシニア挑戦で栄冠をもぎ取った。

実は昨年、ウイルス性の肺炎に侵され、3カ月ほど休養を余儀なくされた。日本グランドシニアは昨年の10位タイでシード権を手にしていて、しかし、その予選も兼ねる今大会は、「九州選手権を取る、という気持ちで出た。午前中の不調で一時は、ダメかなと思っただけに、うれしい」と振り返る。

さて、次の照準の日本選手権。「去年の感触はまだちょっとは残っている。キーは平常心だと思う。カ〜とならなければ」とニヤッと笑った。九州選手権同様、狙っていくつもりだ。